

◇自家菜園と野菜便

大槻伸次

令和元年10月は定年になって丸18年（H13年9月定年）、と同時に自家菜園を始めてから丸18年となった。何の申し合わせか定年直前、農業委員さんから畑を借りないかと打診があったのである。しかし私自身は乗り気でなかった（妻は乗り気）のではっきりと返事をしなかった。ところが、農業委員さんは借りてくれるのは当然という雰囲気、自分としては借りさせられたという思いが強かった。

（今では世話をしてくれた農業委員さんにすごく感謝している）

第一は、我家の屋敷は埋め立てて（田んぼを尾島のヤマトイモ農家の土で、50年前埋め立てたが、今でもヤマト芋が生えてくる）から家を建てる迄の2年間野菜を作ってみたが、草取りに辟易し、家を建ててからも庭先で野菜を栽培したが、夏場は雑草が呆れるほど生え、更に蚊の多さにやる気をなくしていた。

第二に、子どもの頃夏の炎天下に畑と田んぼの草取りを厭というほどさせられことがトラウマとなり、畑作はもうこりごりだという思いが体に浸みこんでいた。

こんな思いがあったが、結局、農地委員さんや妻に推され借りるはめになった。借地予定の畑は、120坪程であるが4軒で借りることになったので、一軒当たり30坪ということになった。畑の形状は長方形で東西に長く舗装道に面し車でのアクセスは良かった。ところが、道路の南側は農家の屋敷林で大きな木が生い茂っているので、冬場は日陰になり、畑自体も周囲の畑に比べ少し低いので、道路との段差が30センチくらいあり大雨のときは浸水する恐れがあった。（屋敷林は現在伐採され、納屋ができた）畑は4軒で分割する前に皆で話しあってホームセンターで、石灰と鶏糞を購入して一様にばら撒いた。その後、くじ引きで場所取りを決めた。抽選の結果、我が家は日当たりが良く条件の良い場所が当たった。10月は秋蒔き野菜の種まきの適期であり、とりあえず大根やほうれん草など蒔いた。その他、世話をしてくれた農業委員さんから株分けの葱苗などを戴いた。白菜や玉葱などは自家苗の育苗が間に合わないので、園芸店で苗を購入し植えた。

私自身は農家出身で、父の野菜づくり（自家用）を見ていたので、ずぶの素人ではないが、暫らく野菜作りをやらなかったのではばらくはカンが取り戻せなかった。例えば、種まきのタイミングが合わず育ちが悪かった、土の湿り具合などに関係なく種を蒔き上手く発芽しなかった、芽生えても適当な時期に殺虫剤の散布しなかったため青虫にやられ全滅した等あった。また、とくに暖かい時期に蒔く野菜は発芽後必ず青虫にやられた。大根などは芯をやられると脇から次の芽が出るが、ろくな大根にならなかった。その後はよい殺虫剤（粒状オルトラン等・粒剤は水に溶く手間がない）が見つかりタイミングよく散布してやるとよい大根ができるようになった。

また、自分が家にいたころの記憶だと、父は白菜や玉ねぎなど何でもを畑に直撒きしていたが、自分は苗をポットで育てて畑で植えるようにしたら結果が驚くほど良かった。育苗箱（ポット播き）のメリットは植え替え時に苗が痛まない、天候に左右されない、ハトなどの鳥害（豆類はハトの大好物）を防げる、畑の準備が間に合わなく

ても播種できる、野菜を年間切らさず栽培できる等が考えられる。そこで、基本的に種から育てるのが良いと考えている。野菜の種は冷蔵庫で保管すれば3年くらいは保存できるから種の無駄が防げる。

夏野菜の定番である胡瓜と茄子を植えたが、最初の頃は連作に弱い茄子は土地が珍しかったのか農家に褒められるほど良いものができ、農家の人にコツ教えてと冗談交じりに云われたことがあった。また、白菜や大根、胡瓜などは庭先で作るよりはずっと良いものができた。さすが、農家が耕していた所だけあって地力があるなど感じた。

しかし、自然相手なので諸々の条件で旨くいったりいかなかったりと試行錯誤の連続だったが、慣れるにしたがってだんだん収量も上がった。

しかし、畑を借りてからしばらくの間最も苦勞したのは、多量の雑草が次から次へと生えてきたことだろう。恐らく前の耕作者のとき手入れが行き届かず、多量の雑草の種がこぼれたようで、雑草の種子は、条件さえ良ければ土の中で何十年という間眠っているのもあるらしいから雑草退治は一筋縄ではいかないと危惧した。こんな調子ではしばらくの間は雑草退治に苦勞するだろうと覚悟したが、隣の仲間は手入れがいき届かなくなったのだろうか野菜を作っているのか雑草を作っているのか分からないほどの状態だった。こんな状況が続いたのと家庭の事情もあったのだろうか、借地から3年位して3軒の家が耕作を返上して、我が家のみとなってしまった。(軽い気持ちで始める人は、簡単にやめられるのかなと思った)

そこで、世話をしてくれた農業委員さんが我が家に全部耕作してくれないかと相談を持ちかけられた。しかし我が家の耕作は、シャベルと鍬、満濃、四つ子などを使っての人力なので、自分の経験から60坪程度が限界でありそれ以上の耕作は耕運機などを使わないと無理と判断した。そこで機械に投資してまで耕作するのは割に合わないし、多量の野菜を作ってもしょうがないとやんわり断わった。

そうであるなら野菜を市場に出荷すればいいとってくれたが、プロは大変と断った。そうこうしている間に農業委員の方が耕作者を見つけてくれたので120坪を折半し、我が家としては土地が高く冬場日陰になる期間の少ない半分を借りた。

そこで、以前の30坪の耕作から倍の60坪になり、耕するのは大変になったが、豆類(落花生、枝豆、ササギ、小豆、トウモロコシ、黒豆など)、芋類(馬鈴薯、里芋、さつま芋)、スイカ・ウリ等栽培よるようになり作付けするメニューも収穫量も格段に増えた。(表参照)豆類のササギは赤飯用でいろいろな記念日に赤飯を焚くために利用。黒大豆は随時煮豆として活用、小豆は正月のお汁粉や餡子として利用しているが、黒豆、ササギと共に食べきれない程獲れ、ストックが一杯ある。

耕作する上での留意事項として、どんなに大変でも必ずシャベルや満濃で掘り返し天地変えをした。そのさい必ず石灰と鶏糞や糞等の有機肥料を大量に漉き込み地力の回復に努めた。(P・H計を買って土地の状態を調べたこともあった)

幸いだったのは、懇意にしている農家から小麦藁や稲藁を毎年多量にいただいているのでナスやトマトの根元の乾燥防止やキュウリやスイカなどの敷藁として利用できたことだろう。ところが、なんとこの敷き藁をばら撒いておくと副作用として雑草が

生えにくくなったのである。その他、留意したのは茄子科の野菜など連作を特に嫌うものは、写真等撮影しておき、翌年の参考にし極力連作を避けるようにした。また、野菜作りで大事なことは毎日畑に行き様子を見てくることだろう。油断をしていると害虫や害鳥の餌食となる。こんな努力もあってか、よい野菜ができるようになり農家に方に褒められるようになった。農家の方曰く、野菜が良くできるのはシャベルでの天地変えが良いんだといていたが、自分自身は出来るだけ野菜屑や藁屑、植木の選定屑などの駄肥を漉き込むようにしているのが良いんだと思っている（我が家は屋敷周りが生垣で、庭木も多いため剪定屑が多量に出る）。また、定年後は時間的な制約が無いので、天気長期予報や週間天気予報など参考にして種蒔きや苗の植えつけが出来るのは良い。しかし温暖化による異常気象なのか、雨が降らない期間が長くなったり、降ったとしても土砂降りだったりとうも安定しないのは困る。（今年は台風19号の来襲と長雨で白菜は全滅状態。ブロッコリーとキャベツは回復している）。

最近栽培する作物の種類も増え、収量も多くなったので子ども達や妻の実家等の親戚、友達にも自信をもって届けられるようになった

そこで、子ども達には「野菜便」（定期便）と銘打って、1週間から10日おきに収穫し、ちゃんとこしらえて、妻が夕方子供たちの元へ（帰宅する時間に合わせ）配達するのが定着している。というのは、孫が成長し食べ盛りとなったのも一因である。

この野菜便のメリットは、単に野菜を届けるということの他、忙しい子ども達や孫たちとのコミュニケーションの場ともなっていてすごく感謝されている。（時には煮炊きして届けることもある）。ところが、この野菜便の大変なところは、年間如何に野菜を切らさずに栽培するかである。そうであるから、チョコちゃん（NHK番組）に叱られないように、ぼーっとはしては行かないのである。そこで、最近庭先も有効活用し野菜栽培に活用している。今後も元気なうちは野菜作りに励んで長く子供たちに届けたいと思っているが、年齢の事も考慮しこの辺で人力作業は卒業し、耕運機を購入することを考えてみたらと妻に勧められ検討することになった。

そこで、ホームセンターに出向いてみたら空気タイヤ付の自走耕運機は16万円以上するので計画は立ち往生してしまった（年齢を考慮するとあまり投資はしたくない）。

それならと、ヤフーオークションを覗いてみたらなんと自分が考えていた大きさと、値段もそこそこの我慢処の耕運機が見つかったので早速落札してしまった。配達先は茨城から、本人が届けてくれるというのであつという間に手に入った。耕運機が入ってからは、腰の痛みもなくなってこれなら当分安定して「野菜便」が続けられるかなと妻と話している。

■写真右・秋野菜の種播き準備。



■我が家の作付け野菜 ※ニラは畑や庭先の縁どりとして植えてある。

作付	種 類	蒔 時	収 穫 期	収 量	備 考
毎年	白菜	8月25日前後	晩秋～翌春	50個前後	今年は台風と長雨で不作
毎年	大根	8月25日前後	晩秋～翌春	60本前後	直播き
毎年	ブロッコリー	8月25日前後	翌春	70個前後	自家苗
毎年	ほうれん草	9月下旬	晩秋～		定番
毎年	小松菜	10月初旬	11月～		定番 庭先
毎年	チンゲン菜	10月初旬	11月～		定番 庭先
毎年	かき菜	10月初旬	翌春3月		自家苗(自家種)
毎年	玉葱	9月10日前後	翌年6月	80kg	自家苗
毎年	ジャガイモ	3月20日前後	6月～7月	60kg前後	種芋5kg購入
毎年	秋春キャベツ	8月25日前後	晩秋～6月	30個前後	自家苗(秋春苗兼用)
毎年	オクラ	5月	5～6月	苗40本	畑直播き
毎年	さやえんどう	11月初旬	4月～	苗木30本	直播とポット播き併用
毎年	トマト	4月初旬	7～9月	出来不良	中型トマト・自家苗
隔年	ラッキョー	9月初旬	翌年6月	10～15kg	種購入・今年は休止
毎年	生姜	5月中旬	9月～10月	今年豊作	種1kg植付け
随時	葉大根	随時	随時		ざっと茹でて炒める
毎年	葱	春植え	随時		自家種とわけネギ
毎年	ササギ	5月中旬	8月～9月	20 プラス	
毎年	小豆	7月20日頃	10月～11月	20 プラス	最大2.2リットル前後
毎年	枝豆	4月下旬(苗床)	6月～7月		種代500円前後
毎年	胡瓜	5月下旬	6月～9月		苗8～10本植え付け
毎年	茄子	5月初旬(苗植付)	6月～10月		苗5～10本植え付け
毎年	西瓜	6月(苗植付)	8月	8個(最大)	今年は嫌充分食べた
毎年	里芋	5月～6月	10月	10kg	冬場の保存が大変
毎年	インゲン	6月～	8月～9月	苗40本	現在は手無しインゲン
毎年	めづら	6月～	7月～9月	毎日収穫	煮付けにして食べる
随時	サラダ菜	5月～	夏場随時		今年は中止
毎年	落花生	6月	10月		苗50本
毎年	苺とブルーベリー	植えっぱなし	6月		生食とジャム
毎年	とうもろこし	6月～随時	7月～8月	30本程度	虫がつきやすい
通年	黒豆	7月初旬	11月	2.0ℓ	自家種,
随時	人参	5月～	7月～8月		収穫少々
毎年	ニンニク	11月初旬	5月～	100球位	
毎年	坊かぼちゃ	6月(苗植付)	8月～9月B	40個前後	苗3本植え付け
毎年	つるな	6月播種	7月ミドル	随時摘取	菜に癖がない味
毎年	まくわ瓜	6月	7月後半	8個	購入苗 今年は苗枯れ
毎年	ズッキーニ	5月		3～5本	種・2株
毎年	ツルムラサキ	5月初旬	6～9月	今年は少	随時摘取

※余った野菜は冷凍庫(冷凍専用庫)で保存して野菜が切れた時、随時利用している。